

五家庄できく（その2）

服部, 英雄
くまもと文学・歴史館 : 館長

<https://hdl.handle.net/2324/2560377>

出版情報 : 文化財情報. 272, pp.3-4, 2020-03. 熊本県文化財保護協会
バージョン :
権利関係 :



五家庄できく（2）

くまもと文学・歴史館長 服部 英雄

（承前）五家庄に足を運んでいます。

目的その1は地名収集調査。目的その2は上妻文庫（くまもと文学・歴史館所蔵）のガラス乾板写真に関する調査です。前回に引き続き、目的その2に関して報告します。

目的・その2 上妻文庫・乾板写真

くまもと文学・歴史館に上妻博之氏が撮影した昭和初年のガラス乾板写真が939枚ある。上妻氏は熊本県史蹟名勝天然記念物調査委員として職業カメラマン帯同の出張調査で、県内各地の情景を撮影している。そのうち葦北郡津奈木町千代にかつて存在した巨大な七本松の写真には、山仕事から帰ってきた荷を負う少年少女たちが写っていた（昭和9年8月12日撮影）。くまもと文学・歴史館では、千代地区の協力を得て、彼ら彼女らの名前を特定し、健在だった90代女性三人に取材した（「80年前の少女との再会」2017、7、『西日本文化』483）。また現地・七本松跡地で三人に集合してもらい、テレビ局がそのシーンをニュース放映した。80年後の再会が実現したのである。彼女たちからは二度ほど聞き取りをし、その生涯についてメモを作成したこともある。残念なことにその後、三人のうち二人が故人となった。山下キサエさんから二度目にお話を伺った時、とてもお元気で楽しい会話が弾んだのに、4日後に亡くなられたと聞いた時は、ひじょうに驚いた。

上妻写真には五家庄地域で撮影されたものもかなりの点数がある。五家庄地域で撮影されたものはすべて昭和3年8月に撮影されている。熊本県の名勝天然記念物の担当であった上妻博之氏の主たる関心は植物・植生にあったのであろう。他地域では無人の植物や風景写真が多いけれど、なぜか五家庄では人が多く写っている。箱蓋に書かれた文字をみると、他地域では「老樹名木誌用」とあるから、刊行を計画していたのだろう。しかし五家庄写真に関しては、記載は「風俗」になっている。上妻一行の訪問を期したかのように、老若男女が多数写っている。どこで写したのか、その人たちが誰なのか、聞き取りによってわかる場合がある。久連子の場合、太鼓踊り（「古代踊り」）撮影の場所は緒方屋敷、つまりお殿様の家か、ないしは学校らしい。そこがいつも踊る場所だったのであろう。撮影期間中には8月15日「しょうりょう祭り」があったと推定されるので、そこで踊られたのであろう。

写っている踊手は、その子や孫が現在も久連子にて生活するから、名前が判明する。久連子石橋（現存しない）の写真もあって、その上に多くの人々が立っている。うち数人の名前がわかった。



『泉・仁田尾地区の人々』B-69-13（西の岩分校）
「上妻博之撮影 くまもと文学・歴史館蔵」

今回訪れた仁田尾での撮影分には、萱葺き屋根二棟の前での集合写真があった。注記には仁田尾としかない。どこの建物なのか。大正15年生まれのおばあちゃん、ヤエ子さんが西の岩分校だと明言された。彼女は水梨の左座家分家から本家にお嫁に来られた方で、小原小学校西の岩分校が母校とのことだから、まちがいはない。昭和3年なのだから、写真撮影時に彼女はまだ三歳の赤ちゃんである。年配者の顔と名前はよく記憶されていたが、子供たちはほとんどわからないとのことだった。子供は成長すれば顔が変わるから、彼女が物心ついた頃は大人の顔、別の顔になっていたのだろう。

パソコン画面にて拡大した写真をお見せしながら、順次名前を比定してもらおう。スラスラと10人近くの名前が出る。声のトーンが変わった。

「私のおとうさん、あゝ私のおじいさん」。

彼女は14歳までおじいさんと同じ布団で寝ていたそうだ。朝昼夜をつねに過ごした人たちと、この写真で再会できた。

『泉村誌』年表（525頁）は新聞記事から作成されたもので、西の岩分校は大正15年5月に開校式、翌昭和2年



西の岩分校職員室兼職員住宅
(昭和33年、九州大学教養部調査団撮影)



【泉・笹越の山並み】 B-67-02 (柿俣・岩奥)
「上妻博之撮影 くまもと文学・歴史館蔵」

5月に落成式、6月新校舎移転、旧校舎は(職員)住宅になる、とある。昭和3年は新校舎での授業が始まった翌年であった。写真を見ても萱屋根の新しさがわかる。

西の岩分校の写真は上妻写真以外にも、昭和33年の九大教養部調査団の写真にあった(泉支所に複製)。萱葺屋根の建物が「職員室兼職員住宅」とある。どうやらこの建物が大正15年から一年間だけの校舎だったらしい(旧校舎、開校以前の前身建物か)。九大調査団はこの職員住宅に宿泊した。

久連子も校舎の写真がある。村誌年表には昭和3年11月、久連子小学校・隣家火災で類焼とある。写真を撮影した3ヶ月後に学校が焼けた。火災は今でも記憶されている。

樺木(もみぎ)の写真の撮影場所は葉木尋常小学校樺木分校とのことだった。「似ている。父親かもしれない」といわれた。葉木の集合写真も学校ではないかということで、かつ建設中とのことだった。別の葉木遠景写真には、村の一番高いところに学校が写っている(のちに国道沿いに移った)。「祇用・二本杉眺望所」でも人々が集まっている。意図的に人々が集合しているとしか考えられない。五家庄では写真撮影の機会がほとんどなかったから、来訪した上妻写真隊に、村人たちが記念写真を依頼したのかもしれない。軍服も多い。村では例年8月15日に在郷軍人の点呼招集があったというから、正装の軍服で集合写真に参加したものか。

五家庄への往復には柿俣(旧泉村)の岩奥地区を通過する。ここを撮影した3年後の上妻写真もある(昭和6年3月22日撮影)。萱葺屋根の家々があって、撮影場所の右横には太い道があり、それが村の中を通過して対岸に上がる。その斜面には段々になった畑が大きく広がり、道は笹越峠に向かって、ぐんぐん登る。感動的な90年前の光景がそこにあった。現在の道路から村を見た。山の稜線の形は同じである。変容は大きいけれど、幾世代も過ぎてきた人々の暮らしを思うことができた。

※追記 前号で地名報告をしたが、『九州山地 カモシカ調査地域図』(1988)には谷ごとの地名が一部記載されている。